

2013.12.15 「見ないのに信じる人」 ヨハネによる福音書20:19～29

此の度は、思いがけない病気に襲われて2ヵ月半入院し、神谷先生はじめ皆様は大変御心配をおかけし、毎日祈って頂き御見舞金も頂き心より感謝しております。

手術したのは9月2日でしたが主治医が発行する「入院治療計画書」には病名として「上腹部腫瘍」と書かれていました。但し、最後の方に「病名は、現時点で考えられるものであり、今後検査を進めるにしたい、変わりうるものである」と書かれていたのです。そして色々な呼び方が出てきましたが、看護師をしている次女(永井みどり)に一般の人にわかり易く表現するには?と問うたら「びまん性B細胞リンパ種」となりました。

医学的な用語ばかりで私自身もわからないままで、十二指腸に閉塞があり食物が通過しない状態なので開腹して腸のバイパス術を行うという説明で私は主治医(田嶋公紀)を信頼し、手術同意書に署名しました。

イエスの十二弟子の一人トマスは疑い深い人として知られていますが、考えてみると人間は皆疑い深いようです。イエスが復活された時弟子たちは皆半信半疑であったようです。私は戦後韓国に行った時、西南学院神学校の先輩から「日本人は疑い深い」と言われました。韓国人の権牧師は韓国人は祈るクリスチャン、台湾人は讃美するクリスチャン、日本人は考えるクリスチャンと言われたのです。

考えるクリスチャンは聖書を読んでもそのみ言葉通り受け入れられず「まさか」と開き直って神学書や復活についての本を読んだりしている。そのため信じるのがかえってむつかしくなっている・・・と自分の目で確かめられない限り信じられないと言っていたトマスに対しイエスは「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は幸いである。」と言われている。(城間)